

令和3年度サステナブルな観光コンテンツ強化事業
「姫街道(中山道)の手仕事を紐解きアドベンチャーツーリズムの
本髄に迫る旅の創出事業」

業務実施報告書
【概要版】

令和5年2月

国土交通省北陸信越運輸局
(受託事業者：株式会社日本旅行)

1. 業務概要

目的

新型コロナウイルス感染症拡大以降、オーバーツーリズム対策や観光資源の保全をはじめとした持続可能な観光地経営が求められており、あわせて旅行者によるサステナブルな観光へのニーズも高まっている。観光庁では、ポスト・コロナ時代を見据え、サステナブルな観光を希望する訪日外国人旅行者をターゲットに、自然、文化、地域本来の生活(生業)といった豊富な地域資源の保全と活用の両立と、旅行者の新たなニーズに対応する基盤整備のため、日本版持続可能な観光ガイドライン(JSTS-D)との関連性を持たせた「サステナブルな観光コンテンツ強化事業」を実施している。活用で得た収益による地域資源の保全や、旅行者が地域の持続性を体験・貢献できる受入環境の整備等の取組により、旅行観光消費額の増加や満足度向上につながる観光資源の磨き上げを図り、各地域での自立的・継続的な取組を促進する。

姫街道(中山道)周辺地域には、農家の手仕事(副業)を発端とする数多くの伝統工芸がある。本事業においては、製作工程の再現や体験、匠の技術の紹介を誘客コンテンツとして磨き上げながら、それらを守り続けてきた地域住民との交流を促し、この伝統工芸が後世に残されることに寄与する滞在型コンテンツを造成することをテーマとする。

業務概要

- ・ 業務対象：姫街道(中山道)周辺地域(伊那谷、南信州、木曾路等)
- ・ 期間：令和4年3月17日(木)から令和5年2月28日(火)
- ・ 対象市場・ターゲット：日本の伝統文化に関心のある欧米豪出身者
- ・ 活用する観光資源：
 - 木曾漆器、お六櫛
 - 伊那紬をはじめとしたシルク繊維産業遺構
 - 飯田水引工芸
 - 木曾赤沢自然休養林、木曾五木の木工体験
 - 各地域のゲストハウスや、農家民泊、上記資源に所縁のある宿泊施設等

2. 連携主体関係者会議の開催

取組体制の構築、コンテンツ造成及び販路検討等の場として連携主体関係者会議を計6回開催した。初回と第2回は3エリアに分けて、第4回は都合が合わなかった南信州のみ別日でいずれもオンライン開催、その他は3エリア合同で現地とオンラインのハイブリッド開催を行った。

第1回	〈上伊那〉 令和4年5月11日(水)10:00～11:00 オンライン 〈南信州〉 令和4年5月12日(木)10:00～11:00 オンライン 〈木曽〉 令和4年5月13日(金)13:00～14:00 オンライン
第2回	〈上伊那〉 令和4年6月28日(火)13:30～14:30 オンライン 〈南信州〉 令和4年6月20日(月)16:00～16:30 オンライン 〈木曽〉 令和4年6月29日(水)10:30～11:30 オンライン
第3回	令和4年7月29日(金)10:00～11:00 木曽観光連盟会議室+オンライン
第4回	〈上伊那〉〈木曽〉 令和4年9月13日(火) 9:30～11:00 木曽町文化交流センター小会議室+オンライン 〈南信州〉 令和4年9月16日(金)17:00～17:30
第5回	令和4年11月28日(火)9:30～11:00 木曽町文化交流センター小会議室+オンライン
第6回	令和5年2月13日(月)15:00～16:30 信州INAセミナーハウス+オンライン

3. 受入環境の調査

対象地域におけるインバウンドに対する受入環境(伝統工芸、農村滞在等)の実態調査及びインバウンド向けの観光コンテンツや宿泊施設(旅館、農家民泊、古民家ゲストハウス等)が継続的に受入可能か等の調査を実施した。各調査項目は以下のとおりである。

調査対象	宿泊施設	施設環境	移動環境	人材環境
調査項目	<ul style="list-style-type: none">施設概要／意向コンテンツ連携訪日外国人旅行者受入体制アクセス	<ul style="list-style-type: none">施設概要／意向コンテンツ連携訪日外国人旅行者受入体制アクセス	<ul style="list-style-type: none">会社名HP【即応性】予約なしで利用できるか【利便性】言語対応はできているか	<ul style="list-style-type: none">心構え/コミュニケーション言語レベル過去経験

4. ガイド人材の育成

対象地域の観光関係事業者、ガイド人材等を対象に、各コンテンツの魅力と素材の価値を英語で訪日外国人旅行者に伝え、滞在に結びつかせる観点を養うことを目的に、2回のガイド研修を実施した。

●第1回ガイド研修

日時	令和4年8月10日(水)13:30~16:30
主な目的	<ul style="list-style-type: none">・本事業で造成する商品像及びそのために必要なガイド像が共通認識になっている。・ガイドだけでなく、地域事業者にも参加していただき高付加価値プログラムのあり方について理解して対応できるようになっている。
主な内容	<ul style="list-style-type: none">○第1部 セミナー 「伝統工芸の高付加価値プログラムの在り方」○第2部 エリア別ディスカッション

<参加者からのご意見・一部抜粋>

<p><第1部セミナー></p> <ul style="list-style-type: none">・サステナブルツーリズムの考え方への理解が深まった。地域の持続性、地域の伝統工芸の発展につながる観光を目指すことに共感できた。外国人の視点からの地域の魅力・課題がたいへん新鮮だった。・セミナーを通じて業界トレンド・セグメントの概要を確認でき、地域の抱える課題との照らし合わせ、課題を踏まえた方向性の明確化ができた。 <p><第2部ワークショップ></p> <ul style="list-style-type: none">・地元以外の方からの意見や、実際関わっている職人さん、ガイドさんからの意見がとても参考になりました。また、3地域で抱えている問題もわかり、勉強になりました。・実際に職人さんから、伝統工芸の魅力や特徴、現状の課題まで聞くことができた貴重な機会となった。
--

<当日のプログラム>

伝統工芸およびその技術を継承する方々の魅力を最大限に伝えられるガイドを目指します！！

★第1部では高付加価値プログラムの在り方として、ターゲットに刺さるポイントを説明
★第2部ではどのような演出方法にするとよいかエリア別ディスカッションを実施

～欧米豪の知的好奇心の高い層に刺さるものとは？～
伝統工芸の高付加価値プログラムの演出を学ぶ 第1回ガイド研修

開催日 2022年8月10日(水) オンライン同時開催 参加無料

時間 13:30 - 16:30 場所/木曾町文化交流センター2F大会議室 (長野県木曾郡木曾町福島5129番地)

タイムスケジュール

- 13:15 受付
13:30 開会・ご挨拶
13:40 第1部 セミナー
「伝統工芸の高付加価値プログラムの在り方」
・サステナブルツーリズムトレンド
・欧米豪の知的好奇心の高い層に評価されるプログラムとは？
・各種演出等に必要なポイント
- 休憩 (10分)
- 14:50 第2部 エリア別ディスカッション
「満足度を上げるための演出案」
今回作成するコンテンツ案をもとに、
・伝え方がいい内容の確認
・どのような演出をするとよいか
・サステナブル要素をどう入れ込むか
※オンライン参加者は、オブザーバーとして参加予定
- 16:20 閉会の挨拶、アンケート記入

※カイト研修は全2回を予定しております。

第1回では、ターゲットに刺さる内容や演出方法を中心に学びます。第2回は木曾・南信州・上伊那のエリア別に実施し、実際にプログラムの流れに沿って案内する練習をしていきます。(8月下旬開催予定)

セミナー
参加
お申込

右記のQRコード、または下記URLお申込フォームよりご登録ください。

<https://forms.gle/kbnA1YdBZeVv3Vf9>

後日、お申し込みいただいたメールアドレスに当日のご案内をお送りします。オンライン参加希望の方には、ZOOMのURLをお送りします。

【お申込締切】2022年8月3日(水) 17:00

本研修は『サステナブルな観光コンテンツ強化事業「姫街道(中山道)」の手仕事を紐解きアドベンチャーツーリズムの本願に迫る旅の創出事業』の事業の一端で実施いたします。

<主催>国土交通省 北陸信越運輸局 観光部 観光地域振興課/一般社団法人長野県観光機構

<運営>株式会社日本旅行/株式会社地域ブランディング研究所

<お問合せ>地域ブランディング研究所 (小島・佐藤・左近) 03-5246-4248 (平日9:00～17:00) chiiki_solution@chibra.co.jp

<当日の様子>



●第2回ガイド研修

日時	令和4年8月31日(水)08:30～9月1日(木)12:30
主な目的	<ul style="list-style-type: none"> ・3地域内で選定された地域資源/コンテンツの“現場”にお伺いし、「ガイドを行ううえでのポイント」を専門家も交えて深掘りを行う。 ・本会にて得られた成果はコンテンツの磨き上げ、ガイド力向上、その後のモニターツアー実施等へ繋げる。 ・地域事業者の皆様によるご協力のもと、ガイド候補者、連携主体関係者、専門家、事業主体者・事務局等が集い、多様な目線・経験を活かして、地域資源/コンテンツの価値を再認識・再発見・再定義する。
主な内容	・基本構成は、①背景理解に繋がる説明、②体験・体感、③意見交換。

<スケジュール概要>

2022年8月31日(水)～ 9月1日(木)	
8/31(水)	【南信州】 「ひさかた和紙」、「関島水引」 【木曽】 「赤沢休養林」 【木曽】 「お六櫓：木祖村郷土館等」
9/1(木)	【上伊那】 「駒ヶ根シルクミュージアム」 【上伊那】 「伊那紬：久保田染色工業」

<専門家プロフィール>



Local Colors コンテンツプロデューサー
アレクサンダー・スタンコフ 氏

<アドバイス内容>
 インバウンドコンテンツプロデューサー
 観光まちづくりアドバイザー

<プロフィール>

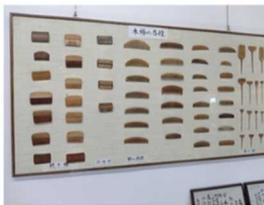
ブルガリア出身。東京大学大学院卒。在日12年以上。通訳案内士資格獲得者。インバウンド実務主任者。日英を含む、4か国語が堪能。体験予約OTA「Voyagin」（現「Rakuten Travel Experiences」）の元コンテンツ・プロデューサー。観光庁の「世界水準のDMO形成促進事業」における外部専門人材。東京都観光まちづくりアドバイザー。47都道府県全てに足を運び、日本全国の魅力を知り尽くしている。地方行政や中央省庁のアドバイザー業務に従事し、日本の知られざる魅力を世界に発信中。

<専門家総評・要点抜粋>

- 全体的に、コンテンツが興味深く、事業者も積極的です。商品完成への道のりがそれほど遠くなく、焦点を当て直したり、流れを円滑にしたりすることで、地元が誇れる観光コンテンツになると思います。一方、アクセスや認知度の壁があり、インバウンドへの販売には課題が残ります。
- 共通するコンセプトとして感じたのは、現代の日本人に忘れられた伝統（決して、忘れてはならないもの）ということです。下久堅の和紙生産、赤沢休養林の木こり産業、お六櫛の生産、伊那の蚕業はすべて現代の日本人に忘れられた伝統で、残り少ない職人さんが必死に保存し続けています。そのような観点から打ち出せば、コンテンツがより興味深くなり、旅行者の感動に直接響くでしょう。

<当日の様子>

お六櫛体験



①下久堅の和紙・水引体験(飯田市)



蚕業と伊那軸



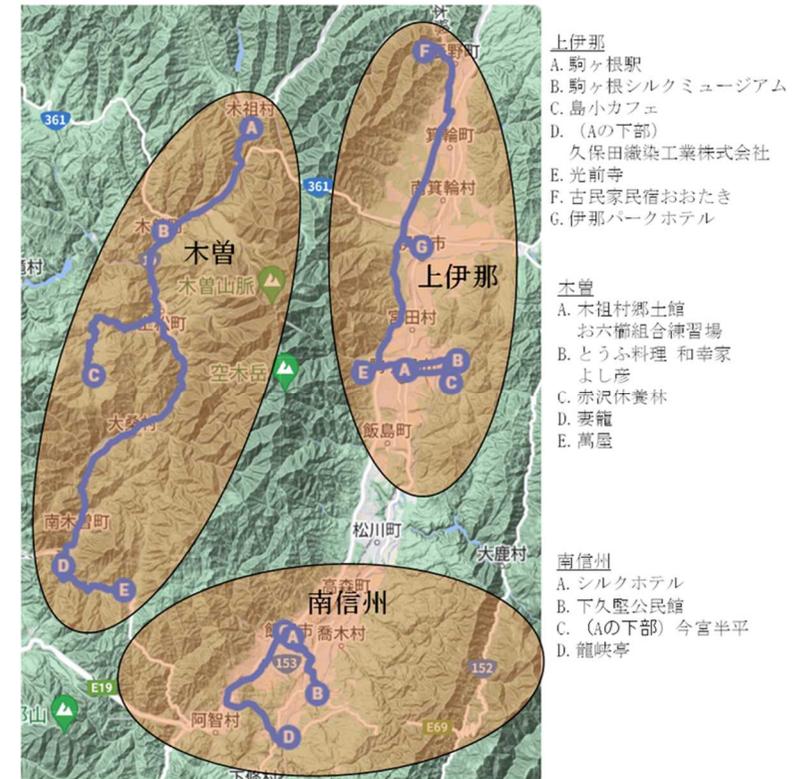
5. モニターツアー及びファムトリップの実施

●モニターツアー

<実施概要>

実施日	令和4年10月24日(水)～10月26日(水)
モニター	○Aline Schneider(アリーヌ・シュナイダー)氏 フランス国籍・Ayabex社のトラベルプランナー ○Norma Delgado(ノーマ・デルガド) メキシコ国籍・Arigato Japan社でガイド及びコンテンツ作成などを担当
主な目的	検証ポイントは以下のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> ・「サステナブル」の前提の担保 ・「滞在コンテンツ」としての完成度・魅力 ・「ガイド」の介在価値・実効性・クオリティの担保 ・「商品」としての収益

<訪問ルートマップ>



<モニター総評・要点抜粋>

上伊那	<ul style="list-style-type: none"> ○「駒ヶ根シルクミュージアム」の見学 <ul style="list-style-type: none"> ・魅力的な施設である。もっと自由に見る時間、お土産を見る時間も欲しい。 ○「伊那紬」のレンタル <ul style="list-style-type: none"> ・本物の着物がこの金額でレンタルできるのはとにかくお得(2,500円は安すぎる)。 ○「久保田織染工業」内の見学・体験 <ul style="list-style-type: none"> ・絹を生産しているこのエリアならではの貴重な体験であった。
木曾	<ul style="list-style-type: none"> ○「木祖村郷土館」内の見学 <ul style="list-style-type: none"> ・このエリアのことがよく分かるものであった。 ○「お六櫓」の手挽き体験および職人との交流 <ul style="list-style-type: none"> ・インパクトのある工房で大変面白い体験であった。 ・職人さんの自己紹介等があればより良かった。 ○「赤沢自然休養林」の散策 <ul style="list-style-type: none"> ・鉄道も現地専門ガイドの方の人柄の良さもパーフェクトであった。 ・現地専門ガイドのご準備されているスクリプトが、英語バージョンでもあればより良いと思った。
南信州	<ul style="list-style-type: none"> ○「ひさかた和紙」の原材料見学・紙すき体験 <ul style="list-style-type: none"> ・原材料見学からはじまり、すべての説明は本当に素晴らしかった。和紙作りの体験は何度かしたことがあるが、和紙がどのように使われているかは見たことがなかった。だから本当に楽しくて面白かった。 ○関島水引 <ul style="list-style-type: none"> ・和紙と水引がどのように関係して、そしてなぜ作られたのかについての説明は本当にありがたかったです。
全体	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3日目の交流が特にとても評判が良かった ・ 資料館の見学等、もっと時間が欲しいといった意見が多数 ・ 日本の中でこういった位置づけのエリアなのかといった情報があればより良い

●ファムトリップ

<実施概要>

実施日	令和5年1月23日(月)～1月28日(土)
旅行会社	<p><上伊那></p> <ul style="list-style-type: none"> True JAPAN tours 浅野明彦氏 KEIKAKU Terrier Sebastien氏 <p><木曽></p> <ul style="list-style-type: none"> True JAPAN tours 塚川剛氏 HIS 宮永麻里絵氏 日本旅行 ジョバンニ・パンテリ氏 <p><南信州></p> <ul style="list-style-type: none"> True JAPAN tours 白岩雪子氏 BCT-Tourlistk 久保田智子氏 ナノボ エリサベス・ヨピス氏
主な目的	最終商品化に向けてマーケット目線からの評価を得る。

<訪問ルートマップ>



- 木曽
- A. 木曽福島駅
 - B. シェコイワイ
 - C. 御料館
 - D. 山みず季 URARA つたや
 - E. 藪原駅
 - F. 木祖村郷土館
 - G. おぎのや
 - H. お六働工房
 - ・木祖村観光協会



- 上伊那
- A. 駒ヶ根駅
 - B. 駒ヶ根シルクミュージアム
 - C. 西山荘
 - D. 久保田織染工業株式会社
 - E. 東右衛門
 - A. 駒ヶ根駅



<旅行会社総評・要点抜粋>

	印象に残った点や魅力を感じた点	改善すべきと感じた点
上伊那	<ul style="list-style-type: none"> 伊那紬が他にない「手織」ということ、そして、手織の体験ができるという点。 宿泊先が旅館と言うより民宿に近く、アットホームであったこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ガイドでは、シルクミュージアムと久保田織染工業での説明が繋がるような連携が欲しい。
木曾	<ul style="list-style-type: none"> 欧米系や富裕層など比較のお金も時間もある層は、日本製・ホンモノ、希少価値のあるものなどに触れたいはずなので、実際に歩いて見て味わえるコンテンツと地元の産業がたくさんあるので、もっとうまくPRできれば、新たなコンテンツとして盛り上がるのではないかと思います。 地元の林業の歴史とそこからつながる食文化、産業、それが今も続いているというストーリーをしっかりと説明し、実際に体験していただくのが良いと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料館、展示館の英語表示。 お六櫛体験は、いきなり本番だとうまく切削できないと思う。木切れで先に練習して道具の使い方（切込み角度、切削回数）に少し慣れたほうが良い。 厳寒と残雪路上歩きであれ以上の長時間の外歩きはつらくなるので、要注意。
南信州	<ul style="list-style-type: none"> 和紙作りも水引体験もとても楽しいものでした。食事をいただきながら職人さんとの交流もとても意味があったと思います。 ガイドが素晴らしかった。ガイドの説明がなかったら飯田の町の良さは分からなかったと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> 職人さんと一緒に食事するのがすごく良いのですが、特別なときしかできないかと思われますので、どの程度このままのコンテンツを提供できるか気になります。 欧米の方々は夜も楽しみたいという方が多いので何かあればよいと思います。ローカルの居酒屋なども外国の方は行ってみたいのではないのでしょうか。

6. モデルツアーの造成及びタリフ作成

地域の皆様方との議論、ガイド研修、モニターツアー、ファムトリップ等を経て、造成したコンテンツを地域ごとにモデルツアーとして取りまとめた。これらのツアーは英語ウェブサイト等でコンテンツの情報発信及び販売ができるようにタリフとしても取りまとめを行った。

●コンテンツ概要

エリア	上伊那	木曾	南信州
活用した地域資源	伊那紬	お六櫛 赤沢自然休養林 ※冬はお六櫛のみ	ひさかた和紙 飯田水引
コンテンツのポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 良質で肌ざわりのよい伊那紬を着ることができる。 ・ 伊那紬がなぜ発展したのか、原料のシルクのストーリーを専属のガイドが案内する。 ・ 現在もひとつひとつ手織りしている伊那紬の職人と交流ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 細かく丁寧な職人技を近くで見えて、一部を体験することで職人技の素晴らしさを実感できる。 ・ 専属のガイドが中山道の宿場町の滞在と、赤沢休養林にて良質な木のストーリーへご案内する。 ・ 職人との交流を通して、櫛にかかる想いを聞くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ストーリーが繋がる2つの伝統工芸を体験。専属ガイドがそれぞれの職人のもとへご案内する。 ・ つくった和紙で手紙を出すことができる。 ・ 自分の好きな組み合わせの水引細工を作ることができる。
サステナブル要素	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在1社のみになった伊那紬の生産者。コンテンツに参加することによって職人への対価と、伊那紬の購入に繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 後継者不足でありながらも地元の人々が守ろうとする伝統工芸のお六櫛。コンテンツに参加することによって職人への対価とお六櫛の購入に繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 後継者不足のひさかた和紙と、社会の変化によって需要が減りつつある水引細工。コンテンツに参加することによって職人への対価と、それぞれの購入に繋げる。

<上伊那>

「伊那紬」ジャパンシルクの逸品、職人技が織りなす紬を体感

長野/上伊那



📍📅👤👤👤

- ・良質で肌ざわりのよい伊那紬を着ることができます。
- ・伊那紬がなぜ発展したのか、原料のシルクのストーリーを専属のガイドが案内。
- ・現在もひとつひとつ手織りしている伊那紬の職人と交流ができます。
- ・伊那紬を守っている唯一の会社、久保田織染工業にご案内。

地域資源ストーリー

伊那谷の土地では、米を作る代わりに発展した養蚕業。良質なシルクを作り、輸出をしました。販売ができない、出来損ないの蚕を使って織られた「伊那紬」。出来損ないの蚕とは言いつつ、とても良質で肌触りの良い高級品です。全て手織りであるため量産ができず、後継者不足などの課題も抱えながらも現在も紡がれています。

カテゴリー

- Tradition Cuisine City Nature Art Relaxation Outdoor

価格情報

- 📄 価格(税込) 〇名参加 〇名参加 〇名参加 〇名参加 〇名参加 〇名参加
- 📄 オプション/価格(税抜)
- 📄 含まれるもの
ガイド料、体験料、食事代(昼食: 〇回)
- 📄 含まれないもの
宿泊費、現地交通費 ※宿泊、現地交通手配のご相談も承ります

言語対応

- 📄 対応言語
 Japanese English Chinese Other ()
- 📄 通訳ガイドの有無
 Yes No
- 📄 通訳ガイドの対応言語やその他ガイド情報

言語補完ツール

受け入れ情報

- 📄 実施期間・実施回数
月・火・木・金曜日
- 📄 所要時間・開始時間
7時間 9:00~
- 📄 催行人数(最大/最小)
〇人~〇人
※〇名以上の場合は着付けの時間で行程が変更になる可能性があります。詳しくはお問い合わせください。



集合場所: 〇〇駒ヶ根駅
〒〇〇〇〇 長野県駒ヶ根市東町1
アクセス:
〇〇塩尻駅より約〇時間半
新宿駅よりバスにて約〇時間

<木曾>

「お六櫛」中山道の宿場町で木曾の木から生まれる匠の技を体感

長野/木曾



📍🕒📞📧📷

- ・細かく丁寧な職人技を近くで見て、一部を体験することで職人技の素晴らしさを実感。お六櫛を持ち帰ることができます。
- ・職人との交流を通して、櫛にかける想いを聞くことができます。
- ・後継者不足でありながらも地元の人々が守ろうとする伝統工芸のお六櫛。

地域資源ストーリー

中山道で人々が行き交った木曾。気候等の特性からヒノキなどを代表する良質な木が育ち、木材を使った製品をつくり、販売してきました。「お六櫛」は今でも職人がひとつひとつ丁寧に作っています。職人自身に合わせた道具を使うため、道具も手作り。職人技で細かく挽かれた櫛は、髪の毛の汚れを綺麗におとし、頭皮を刺激し血行を良くする効果もあります。昔ながらの日本の情緒を感じる中山道を歩きながら、職人のこだわりにふれてみませんか。

カテゴリー

Tradition Cuisine City Nature Art Relaxation Outdoor

価格情報

- ▣ 価格(税込) 1名参加 2名参加 3名参加 4名参加 5名参加 6名参加 7名参加 8名参加 9名参加 10名参加
- ▣ オプション/価格(税抜)
- ▣ 含まれるもの
ガイド料、体験費(お六櫛付)、食事代(昼食:2回)
- ▣ 含まれないもの
現地交通費

言語対応

- ▣ 対応言語
 Japanese English Chinese Other ()
- ▣ 通訳ガイドの有無
 Yes No
- ▣ 通訳ガイドの対応言語やその他ガイド情報
- ▣ 言語補完ツール

受け入れ情報

- ▣ 実施期間・実施回数
月・水曜日と年末年始(🗓️🗓️🗓️)を除く
- ▣ 所要時間・開始時間
🕒時間 🕒時間~
- ▣ 催行人数(最大・最小)
👤人~👤人

📍🗺️📍📍



集合場所:📍藪原駅
〒399-6201 長野県木曾郡木祖村藪原
アクセス:
📍塩尻駅より電車にて約15分

<南信州>

「和紙と水引細工」美しく繊細な日本文化をたどる

長野/南信州



📍📍📍📍

- ・ストーリーが繋がる📍の伝統工芸を体験。
- ・専属ガイドがそれぞれの職人のもとへご案内。
- ・つくった和紙で手紙を出すことができます。

地域資源ストーリー

南信州(飯田)エリアでは、天竜川が流れ、豊富な水資源から和紙づくりが発展しました。丈夫で良質な和紙から侍の髪を結ぶ「元結」がつくられ、そこからさらに発展した水引は縁起がいいものとされています。それぞれの職人が日本らしい和紙・水引を作り続けています。

カテゴリー

- Tradition Cuisine City Nature Art Relaxation Outdoor

価格情報

- 📍 価格(税抜)
 1名参加📍 2名参加📍 3名参加📍 4名参加📍 5名参加📍 6名参加📍 7名参加📍 8名参加📍 9名参加📍 10名参加📍
- 📍 オプション/価格(税抜)
- 📍 含まれるもの
 ガイド料、体験料、現地交通費、食事代(昼食:📍回)
- 📍 含まれないもの

言語対応

- 📍 対応言語
 Japanese English Chinese Other()
- 📍 通訳ガイドの有無
 Yes No
- 📍 通訳ガイドの対応言語やその他ガイド情報
- 📍 言語補完ツール

受け入れ情報

- 📍 実施期間・実施回数
 月・火・木・金曜日
- 📍 所要時間・開始時間
 📍時間📍分 📍📍
- 📍 催行人数(最大📍人)
 📍~📍人 ※📍名以上はお問い合わせください



集合場所:📍飯田駅 📍R📍
 〒📍📍📍長野県飯田市上飯田📍
 アクセス:
 名古屋駅よりバスで約📍時間

7. 情報発信・販路開拓等に資する制作物の作成

作成したコンテンツの情報発信や販路開拓等に資する制作物として、「動画」「体験記事」「ランディングページ」を作成した。なお、これらは各地域の観光資源の希少価値や次世代への継承についてなど、「サステナブル」な活用・保全への理解を促進するものでもある。概要は以下のとおりである。

●制作物作成の基本指針

○動画

- ・ 作成したコンテンツの情報提供、各地域の観光資源の希少価値や次世代への継承についてなど、「サステナブル」な活用・保全への理解を促進する動画を制作（7分程度、2本以上）。
- ・ 対象市場・ターゲットの目線で制作
- ・ 字幕を入れる場合は、字幕なしパターンも合わせて納品
- ・ 海外目線での映像制作指針

○体験記事

- ・ 作成した体験記事はランディングページ及び長野県公式観光ウェブサイト「Go NAGANO」等に掲載する。

○ランディングページ

- ・ 作成したコンテンツのWEB上における販路確保（OTA等を含む効果的な販売システムへの登録）、及びそれらに連動するランディングページを制作する。制作したランディングページは、連携する観光協会のホームページ、長野県公式観光ウェブサイト「Go NAGANO」等へ連動する。販路確保は、地域ブランディング研究所が提供しているオンライン販売システム「Attractive JAPAN」に登録。

<動画の一部抜粋（上伊那/木曾/南信州）>



<体験記事の一部抜粋>



(タイトル)

110年以上引き継がれてきた技術と自然の風物を活かした色彩。「伊那紬」が紡ぐ伝統文化。

翻訳文

Colors made by Techniques have been continued over 110 years and Natural Elements. Traditional Culture Spun by Ina Tsumugi.

(リード文)

通称「姫街道」とも呼ばれる長野県旧中山道の近くにある上伊那地域。このエリアは、農家の手仕事から生まれた数多くの伝統工芸が受け継がれています。その中で、今回は上伊那地域の「伊那紬」をご紹介します。

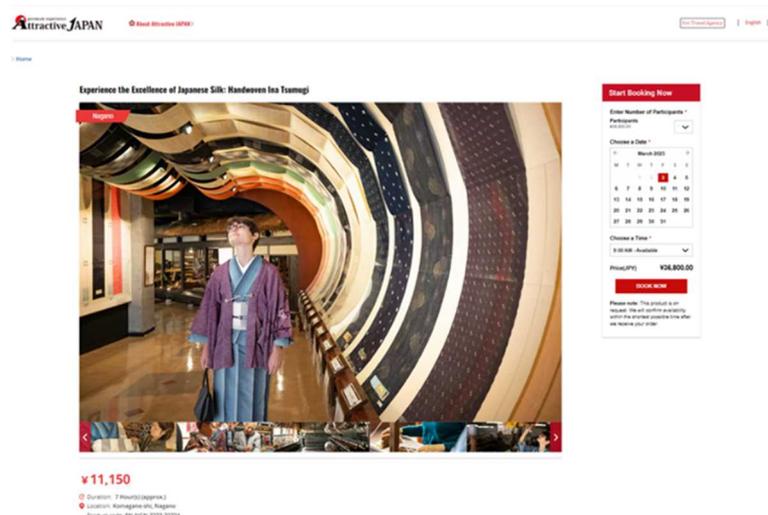
翻訳文

In the area around the old Nakasendo path in Nagano Prefecture, also known as "Hime Kaido". There are many traditional crafts, which is born from the handiwork of farmers, have been continued. Among them, this time we will introduce *Ina tsumugi* from the Kamiina region.

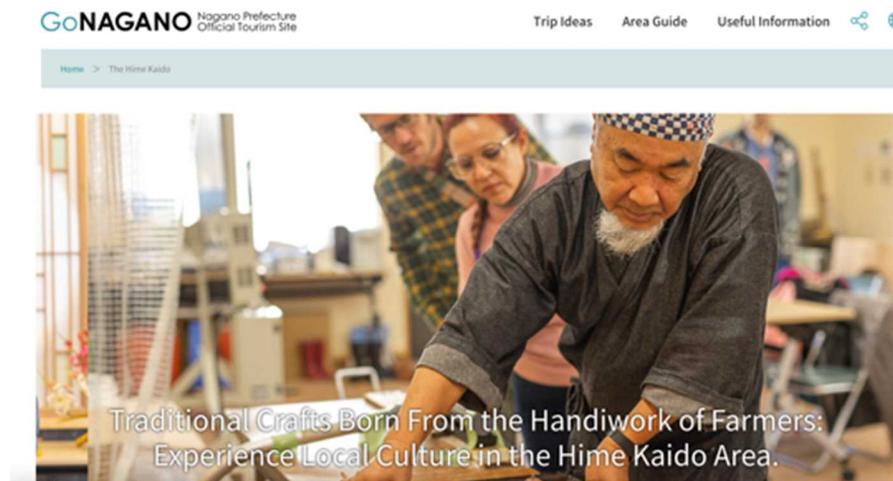
(本文)

女性たちが家族のために織った反物から始まった伊那紬の歴史・文化。

<OTA 登録の一部抜粋（上伊那/木曾/南信州）>



<ランディングページの一部抜粋（上伊那/木曾/南信州）>



各地域の詳細版は以下のリンク先をご参照

【全体（記事）】 <https://www.go-nagano.net/en/hime-kaido/landing/>

【上伊那】（OTA） <https://attractive-j.com/experiences/PWHOLD>

（記事） <https://www.go-nagano.net/en/theme/id=20965>

【木曾】（OTA） <https://attractive-j.com/experiences/PTLIER>

（記事） <https://www.go-nagano.net/en/theme/id=20963>

【南信州】（OTA） <https://attractive-j.com/experiences/PNWTJQ>

（記事） <https://www.go-nagano.net/en/theme/id=20961>

8. 業務の総括ならびに今後の課題

本事業を通じて、地域の関係者の皆様と連携・協力を図りながら、日本の伝統文化に関心のある欧米豪出身者をターゲットとした滞在型コンテンツを上伊那、木曾、南信州の各地域に対して造成することができた。

●地域の皆様の認識・評価

本事業は地域の皆様のご理解がなければ持続不可能である。地域の皆様の認識・評価の現在地を把握しておくことが肝要であるため、商品造成工程終了時に以下の関係者の皆様に振り返りのアンケート調査を実施した。事業の持続・発展の前提となる観点の認識・評価を伺った。

◆サステナブル・ツーリズムへの理解は深まったか。

大半の方が本事業への関わりを通じて、事業趣旨の根幹である「サステナブルツーリズム」への理解を深めて頂いた結果となっている。

- | |
|------------------------------|
| 【3/14】 ①(事業当初より)大いに理解が深まった |
| 【7/14】 ②(事業当初より)多少理解が深まった |
| 【4/14】 ③(事業当初より)変化はない(わからない) |
| 【0/14】 ④判断が難しい |

◆「伝統工芸が後世に残されることに寄与する滞在型コンテンツを造成すること」という点をどのように認識・評価しているか。

本観点についても、大半の方が本事業への関わりを通じて、事業実施・継続動機の根幹である「伝統工芸が後世に残されることへの寄与」について必要性を感じて頂いた結果となっている。これらが、真に寄与するかどうかは、「今後のこの事業の成果にかかっている」といったコメントに集約されており、事業期間終了後の対応が重要になる。

- | |
|----------------------------------|
| 【7/14】 ①(事業当初より)大いに必要性を感じる |
| 【5/14】 ②(事業当初より)必要性を感じる |
| 【0/14】 ③(事業当初より)必要性に変化はない(やや厳しい) |
| 【2/14】 ④判断が難しい |

◆欧米豪の外国籍の方を引き続きお客様として対応していく点をどのように認識・評価しているか。

本観点についても、大半の方が本事業への関わりを通じて、事業性・経済性の根幹である「欧米豪の外国籍の方がお客様である」ことについて可能性を感じて頂いた結果となっている。頂いたコメントの中に「一般の方々の評価がまだはっきり見えていない」といったことが聞かれた。本事業の中では、エンドユーザーからの直接の評価・検証は十分に行えていないため、インバウンド回復に伴うマーケットトレンドを十分に把握したうえでの評価・検証による磨き上げが肝要になる。

- | |
|----------------------------------|
| 【5/14】 ①(事業当初より)大いに可能性を感じる |
| 【8/14】 ②(事業当初より)可能性を感じる |
| 【0/14】 ③(事業当初より)可能性に変化はない(やや厳しい) |
| 【1/14】 ④判断が難しい |

◆全般的なご意見 〈アンケートより抜粋(一部、表現等を精査)〉

○合意形成・体制・初動等について

- ・今回の事業については当初からゴールが見えづらく、各人の役割や立ち位置を理解しないうちに事業が進んできた感があり、戸惑う場面が多かったように思います。当初の段階でポイントを押さえ、目的と役割を明確化したうえで進めることがスムーズな推進とさらなる実効性に繋がると感じました。
- ・以前から本事業の構想はあったと思うが、実際に地元においてきたのが令和4年夏ですので、もっと早くから一緒に創り上げられなかったものかと思います。
- ・もう少し地域として必要と思われるコンテンツの洗い出しや、自ら手を上げられるようなコンテンツ、こういった事業を必要としている方々へのヒアリングから実態を確認した上で取り組むことで成果も得られると感じました。
- ・姫街道エリアで何が検討されて、どのような経緯で今回の伝統工芸品の選定につながったのかを関係者全体に共有できる場面がもっと早めであればよかったと思います。

○対応指針や水準等について

- ・木曾エリア、上伊那エリア、飯田エリアが、連携するようで連携しなかった。その後、連携しすぎるとツアーづくりが難しくなるということは分かったが。
- ・ガイド研修の設計や学び、その後の対応は十分だったのか。
- ・反省点など、腑に落ちないまま(あまり認識していないまま)ファムのプログラム作りに移っていった感じです。

○今後の展開について

- ・インバウンドに特化した事業は今回が初めてでしたが、おしなべてどの事業も事業そのものが目的となってしまっていて、本来の得られるべき成果が乏しかったと感じています。この事業の今後に期待しています。
- ・職人さんに負担がかからないスタイルでの受け入れを模索しました。ただ、今後そのことがツアーにおいてお客様の満足度が欠けたり、商品にならない場合もあろうかと思われます。ただ現実的には人材的に不足していたり高齢化する中では、負担を極力減らす必要が長続きをする為のものであると思っています。

●今後の課題

今後、事業を継続・発展させていくうえで、乗り越えなければならない課題についても地域の皆様から具体的な認識、ご意見を頂戴している。まずは、事業期間終了後に課題テーマ毎に該当する関係者を招聘して議論を行うことが次の一歩となる。その際の論点や留意点等について、地域の皆様からのご意見等も勘案したうえで、課題ごとに整理を行った。

◆遂行体制について

事業終了後は、その造成した商品を販売していくことに主眼が移っていく。そのため、これからのリード役は販売主体(地域のDMO等)に期待されることになる。一方で、インバウンド向けの販売体制や経験等については、各地域の販売主体に十分にあるというわけではないため、今後は本事業では事務局を務めていた日本旅行、地域ブランディング研究所が、本業でもある旅行商品販売事業者として、各地域の販売主体とビジネスパートナーとして、連携を図りながらインバウンド販売をリードしていくことが考えられる。

なお、上記を確実なものとして実行していくうえで、本事業内の対応だけでは不足していた点として、欧米豪の実際のエンドユーザーを対象とした有料モニターツアー/テスト販売による検証・磨き上げが上げられる。場合によっては、本事業のような各種公的支援の枠組みを継続して活用し、実践的な商品の磨き上げ、体制構築等を行うところまでを、関係する皆様と丁寧に行ったうえで、本格的な販売へシフトしていくような流れの方が関係する皆様も安心して関わっていくことができるかもしれない。

〈アンケートより抜粋(一部、表現等を精査)〉

○継続議論とリード役の明確化

・販売やPRはこれからのアクションアイテムなので、引き続き各地域の人たちと話し合いながら、継続していくことが必要だと感じます。リードする人がいなくなると失速するので要注意だと思います。

一県なども巻き込み、地域と協力しながらどのような体制で商品のブラッシュアップを行っていくのか、そのリード役を決めておくことが重要。

・1にも2にもまずはこの商品に関心を持って、頻繁とはいかなくても通年で外国の観光客が来る実績ができるとうい。日本旅行、地域ブランディング研究所にはそのためのサポートを強力にお願いしたいし、地元DMOには軌道に乗るように頑張っていたきたい(助成事業でモニターツアーまで行ったが、本番はなかったという例が多いので)。

○地域横断的な連携体制の強化

・地域を横断した面的な取り扱いが必要であるとする。効果的なPRをするための体制整備や販売体制の確立に向けた連携を進めていきたい。

・伊那・飯田と木曾を広域に巡るツアーの道筋を立ててほしい。

○丁寧な合意形成の継続

・生活文化が違う外国人を受け入れることに対しての留意点について受け入れ側としての事前学習はその都度(ツアー毎)必要。

・ツアーの頻度が不明確な中で、実際に少ない職人で対応が出来るかどうか心配(販売前に十分な打ち合わせが必要)。

○近隣まで訪れている外国籍の方へのPR

・今までも木曾中山道を歩く外国人は多いので、そういう観光客にもこの企画の趣旨が伝わり、途中からでも伝統工芸品に触れる機会はないか。

◆伝統工芸事業の後継者育成・確保について

本事業の取り組みや成果がすぐに伝統工芸事業の後継者育成・確保に直結するわけではないが、本事業の取り組みを通じて、当該地域における伝統工芸事業の現状の課題等の認知から始まり、そこだけに留まることなく、根底にある魅力や価値が欧米豪をはじめとした外国籍の方にも共感されうるものであること、そして、それらをガイドという形で介在して関わっていきたいという方も複数名いらっしゃる、それらを商品とした時に旅行商品として十分に扱えるといった評価を旅行事業者からも得られているという事実が可視化できたことは、伝統工芸事業の後継者育成・確保という本質的な課題に取り組んでいくうえで、これまでになかった材料を得ることができたと考えられる。

伝統工芸に興味を持っていたとしても、経済面がネックになって、それ以上検討が進まなかった方や伝統工芸に関わることと欧米豪のインバウンド観光客が繋がることを想像したこともなかった方（これまでのアプローチ対象とは異なる層への訴求）はいらっしゃるはずなので、本事業で得られた成果を各地域の伝統工芸事業の保全・活性化等を取り扱っている行政部門や関係団体等に共有することで、まずは新たな伝統工芸との関わり方や可能性をしっかりと世の中に認知してもらう取り組みを行うことが本事業の成果を活用して頂くうえでは有効だと考えられる。

また、アンケートからも聞かれたように、本事業に関係して下さった方の中には、今回の経験をきっかけに、伝統工芸事業の後継者育成・確保に向けて継続して関わっていきたいと感じて下さっている方もいらっしゃるため、このような背景理解をして下さっている方の継続的な有効活用も肝要である。

〈アンケートより抜粋(一部、表現等を精査)〉

○担い手を確保・育成していく仕組み作り

- ・各組合等がある場合、地域内外の伝統工芸に関心のある者が趣味レベルだったものから複・副業レベルまで技術研鑽・習得できる場として機能する「道場システム」が確立されるよう働きかけたい。
- このような場にガイドも関与・交流していく形式がよいか。

◆ガイド人材の継続育成・確保について

取り扱う内容が伝統工芸であり、お客様も知的好奇心の高い方を相手にするため、背景理解や伝統工芸事業者との関係性作りが極めて重要となるため、単にガイド経験がある方を確保するだけでは成り立ちづらい側面がある。そのような状況下ではあったが、本事業でご協力頂いたガイドの皆様が丁寧に現場で伝統工芸事業者や事務局と複数回の勉強会を重ねて、当該地域の伝統工芸事業のガイドを行う際のアウトラインを作り上げて下さった。これらを軸としながら、現場でのOJT研修等も重ねていながら、ガイド人材の着実な継続育成・確保の仕組みを構築できる土台は整いつつある。

ただその際に課題となるのが、これらのガイド育成を誰が、どの組織が今後はリードしていくのかということである。今後、販売へシフトいくことで、予約が入れば、既存のガイドの皆様に対応していただくことになるので、当面のガイド対応については問題がないと思われるが、継続育成や確保といった中長期的な視点に対応するためには、何かしらの組織体・会議体等が必要となるため、本事業でご協力を頂いたガイドの皆様にも継続してご協力を頂くような体制構築に向けた議論を早期に行うことが望ましいと考えられる。

〈アンケートより抜粋(一部、表現等を精査)〉

○横断的に対応できる人材育成

- ・スポット的なガイド人材も非常に重要だが、広い地域を横断的に対応可能なガイド人材が複数確保されることが望ましい。良質なガイドがいることでお客様へ安心を提供するとともに旅行の印象値や価値の向上に繋がる。

◆宿泊・飲食における外国籍者への対応について

宿泊・飲食におけるインバウンド対応は受け入れ強化をしていくうえでは必須事項になり、当該地域はこれらの対応が充実しているとは言えない現状のため、早急に対応を強化すべき点であるとは考えられるが、過去の経験からこれらの対応が非常にストレスになっているといった地域の声も聞かれた。サステナブルの本質は、地域自体も無理なく対応できることにあることを鑑みると、丁寧な対応が必要だと考えられる（対応しない意思を尊重することも）。

ベジタリアンやハラール等の食制限者も非常に多様であり、最新の正しい認識を各事業者単体で身に付け、対応をしていくことは容易ではないため、専門家の協力を得ながら、まずは地域内で勉強会等からはじめ、具体的にどのような対応が必要か相談やアドバイスをもらえるような機会・環境を整えていくことが必要であると考えられる。

<アンケートより抜粋(一部、表現等を精査)>

○食制限への対応状況の見える化

- ・食事の候補場所に説明し、食制限者（ベジタリアンやハラール等）への料理を検証してもらう必要があるかもしれません。

<協力事業者の意見より抜粋(一部、表現等を精査)>

○各お店の意向の尊重

- ・ご協力を相談したお店の中には、食制限対応は自分たちが提供したいものがあるべき形で提供できないため、非常にストレスで、スタッフがそれをきっかけに辞めてしまったこともあるといった声も聞かれた。

◆二次交通の充実について

当該地域における二次交通の課題が大きいことは認識はしていたが、本事業内で本質的に解決できる課題ではなかったため、モニターツアーやファムトリップでは、既存の交通事業者におけるタクシーを利用することで、対応を行った。

検討会議でも発言があったが、交通インフラについて議論を行ううえでは、行政にも会議の場に出席頂くことで、より踏み込んだ議論ができる可能性があるとのことだったので、本事業の成果等を共有したうえで、議論を行うことが望ましいと考えられる。

<アンケートより抜粋(一部、表現等を精査)>

○前提としての地域間を連携する交通の整備

- ・本事業に限らず三地域の観光全体で飛騨高山-木曽-上伊那(国道361号)の広域急行バス便(Japan Rail Pass 使用可能が望ましい)が最低限の交通インフラとして必要。

○既存二次交通の使い勝手向上

- ・本事業に限らず滞在型コンテンツをご利用いただくために利用者側にフレックスタイプの交通パスの選択肢が必要(廃止された現状では滞在型観光に結びつかない)。
- ・二次交通の面では課題が山積した地域である。一方で現状の二次交通を効果的にPRする必要性も感じている。
 - 公共交通のタイムテーブルをわかりやすく提示することで既存の利便性も向上するか。

○タクシー以外の二次交通の選択肢

- ・特に伊那・南信州地域においては、コンテンツ/スポット間にタクシー以外の二次交通の選択肢が必要【e-bike 等が考えられるか?】。

○レンタカー利用の周知

- ・レンタカーをお客様に借りてもらい、それを利用しての移動はどうか【EVでない場合は環境配慮面での課題はあり】。お客様がレンタカーや自家用車でお越しただけであれば、ガイドもそこに乗り込んで対応できるはず。

◆天候リスクへの対応について

本事業で造成した伝統工芸の体験自体は、施設の中で行うため、雨や季節の影響を受けにくく、見方を変えれば、天候リスクの影響を受けやすい地域の自然体験プランを補完する位置づけとしても活用できるかもしれない。また、スルーガイドによる滞在型プランとして、1泊2日を最低単位とした建付けとなっているため、天候の様子を見ながら、ある程度柔軟にプラン構成も変更できる余地も併せもっている。

これらの特性を活かしつつも、本事業内では背景理解となる自然体験にあたる部分（天候リスクの影響が大きい行程の部分）は複数案の検討・造成までは十分にできていないため、まずは現状案をスタンダードとして、販売後の実施状況を見ながら、天候リスクにも対処できるプランの複線化を販売主体と検討できると望ましいと考えられる。

<アンケートより抜粋(一部、表現等を精査)>

○雨天時の代替案

- ・天竜峡散策、赤沢休養林散策、木曾福島市内散策、駒ヶ根光前寺散策などのバックアップを考えないとはいけません。これらの代替案に関しては、実際に機能するかどうかの検証も必要だと思います。

○厳冬期の想定

- ・木曾エリアは厳冬期が長く（12月～3月）標高の高い山など立ち入れない区域が多いので、宿場内での楽しみや冬期の別プランも検討したり、厳冬期ならではのイベントや景色、室内で楽しむコンテンツの検討が必要だと思います。

◆その他

<アンケートより抜粋(一部、表現等を精査)>

○言語対応の充実

- ・外国籍の方にも理解していただくための資料等が揃っていない。より理解いただくための資料の充実が求められる。
- ・観光地のマナー等の多言語案内も必要。